

# 究める!質の高い看護を実践するために

問合 市民病院経営企画課経営企画G ☎28-5151 内線2281

皆さんは「専門・認定看護師」という言葉を聞いたことがありますか。

「専門・認定看護師」とは、高度に専門分化していく医療現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師のことです(日本看護協会認定資格)。

3回にわたり、津島市民病院で働いている認定看護師についてご紹介します。

## 認知症看護認定看護師



▲普段の生活について話している様子



▲認知症サポートチームカンファレンスの様子

令和2年、我が国で認知症を持つ人は約700万人いるとされており、高齢者の実に5人に1人は認知症を持つと言われていています。今後さらに高齢化率は上昇していくことが予測され、それに伴い認知症を持つ人の数も増えていきます。

認知症を持つ人は、入院に伴い、体の不調や治療に対するストレスに対応することが難しく、急激な環境の変化から混乱し、さらに認知機能の低下を招くことがあります。医師、薬剤師、作業療法士、医療相談員など多職種で構成された認知症サポートチームの活動として、そのような患者さんに対して、その人らしさを大切にケアや、安心安全な療養環境を整え、穏やかに入院生活が送れるよう支援しています。それに加えて、よりよい認知症ケアの検討やスタッフへのアドバイスも行っています。

認知症看護認定看護師の役割は、専門的な知識や技術を用いて、認知症を持つ人の尊厳を守ること、生活を調整すること、自己決定を支援すること、ご家族を支援することなどです。入院中は認知症の人が安心して治療を受けることができ、また、退院後にも認知症になってもできるだけ住み慣れた環境の中で「その人らしく」安心して暮らすことができるよう、認知症を持つ人やご家族に寄り添い、共に考え、支えています。

1980年代末にイギリスの臨床心理学者のトム・キットウッド氏によって「パーソンセンタードケア」が提唱されました。認知症を持つ人の「心理的ニーズ」を理解する上で

「一人の人間として無条件に尊重されること」を中心に、「共にあること」「くつろぎ」「自分らしさ」「結びつき」「たずさわること」という6つのことが重要であると考え、それを「花の絵」で表現し、その概念は近代の認知症ケアにも大きな影響を及ぼしました。

認知症を持つ人が「自分らしくありたい」「結びつきを持ちたい」など、自ら意思を明確に発することは難しいかもしれませんが、「なぜできないのか」「どうしてこちらの意にそぐわない言動があらわれるのか」を支援する側が理解し、相手の求めている「ニーズ」を理解することが、認知症ケアを行う上でも、パーソンセンタードケアを実践する上でも重要と考えます。



えんげ  
摂食・嚥下障害看護認定看護師



主任看護師  
とみだひろかず  
富田浩一

▲嚥下訓練の様子



▲嚥下機能検査

超高齢社会を迎え、様々な病気を抱えている患者さんが増えてきており、ものを食べること(摂食)、ものを飲み込むこと(嚥下)に障害を抱える患者さんも増えてきています。もし口から食べられなくなってしまうと、特に高齢者は体が弱り、活動量が減り、寝たきりになっていくことがあります。免疫力が落ち、生命を脅かす合併症を引き起こしやすくなります。何より口から食べる楽しみがなくなり、社会性を失い生きる意欲がなくなってしまうこともあります。そうならないためには低栄養・脱水・誤嚥性肺炎・窒息の予防、嚥下機能評価や訓練、適切な食事介助、口腔ケアなどが重要となります。

私は平成24年に摂食・嚥下障害看護認定看護師となり、実践を通して看護師への指導をしています。そして多職種との橋渡しの存在となり、連携してチームアプローチしています。

食生活支援について、院内教育や看護学校、他施設、地域住民の方向けに出張講座も行っています。通院中の患者さんや地域の医療機関からの紹介患者さんを対象として、耳鼻いんこう科外来での嚥下内視鏡を用いた嚥下評価に立ち会い、医師の検査後に看護師による食生活指導をしています。また、認定看護師による摂食・嚥下相談外来も開設しています。以下のことでお悩みの方は当院ホームページを参考に、地域医療センターへご相談ください。

摂食・嚥下障害看護は地域医療・介護において非常に重要と考えています。今後とも、地域のみなさんと食生活支援を通じてつながりが持てるよう尽力します。

嚥下(看護)

- ・摂食条件指示書の作成
- ・摂食機能療法
- ・嚥下相談外来
- ・公開講座

栄養

- ・管理栄養士との連携
- ・栄養サポートチーム回診

チーム医療

- ・歯科口腔外科・歯科衛生士との連携
- ・口腔機能評価

口腔ケア

- ・リハビリ療法士との連携
- ・耳鼻いんこう科医師との連携
- ・嚥下評価、ポジショニングなど

嚥下リハビリ

お悩みや質問の一例

- ・食事の最中に最近よくむせるから、食事がすまない。
- ・飲み込むときにのどに引っかかる感じがする。
- ・飲み込みやすくできる食事の工夫を教えて。
- ・胃ろうがあるけれど、口から少しでも食べることはできないでしょうか。

次回は脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、救急看護認定看護師についてご紹介します。



摂食・嚥下相談外来  
医療センターへ  
お問い合わせ  
〒900-8585 富山県富山市